

再評価結果（平成27年度事業継続箇所）

担当課： 道路局高速道路課

担当課長名： 吉岡 幹夫

事業名	第二東海自動車道 はままつ とよたひがし (浜松いなさJCT～豊田東JCT)		事業区分	高速自動車国道	事業主体	中日本高速道路(株)
起終点	自) 静岡県浜松市北区引佐町の場 はままつ きた いなさ まとば 至) 愛知県豊田市岩倉町 とよた いわくら			延長	5.5 km	
事業概要 第二東海自動車道は第二名神高速道路と一体となって、三大都市圏を相互に結び、人の交流と物流を支える大動脈として、日本経済を牽引するとともに、東名・名神高速道路の代替機能を果たす上で不可欠な路線である。						
H5年度事業化		都市計画なし		H11年度用地着手		H19年度工事着手
全体事業費	約6,190億円	事業進捗率	62%	供用済延長	0 km	
計画交通量	44,100台/日 ～ 48,900台/日					
費用対効果 分析結果	B/C	総費用 (残事業)/(事業全体)		総便益 (残事業)/(事業全体)		基準年
	(事業全体) 1.9 (残事業) 6.1	2,324/7,511億円 (事業費: 1,629/6,816億円) (維持管理費: 695/695億円)		14,254/14,254億円 (走行時間短縮便益: 12,819/12,819億円) (走行費用減少便益: 1,057/1,057億円) (交通事故減少便益: 378/378億円)		平成26年
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施						
交通量変動	: B/C=5.5~6.7 (交通量 ±10%)					
事業費変動	: B/C=5.7~6.6 (事業費 ±10%)					
事業期間変動	: B/C=5.9~6.3 (事業期間 ±1年)					
事業の効果等						
<ul style="list-style-type: none"> <li>円滑なモビリティの確保 (現道等の年間渋滞損失時間及び削減率)</li> <li>国土・地域ネットワークの構築 (当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する)</li> <li>災害への備え (緊急輸送路が通行止めになった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する) 他13項目に該当</li> </ul>						
関係する地方公共団体等の意見						
<p>&lt;静岡県&gt;新東名高速道路は、我が国の社会経済活動の根幹を担う新たな大動脈として、慢性的な渋滞に陥っている東名高速道路と交通機能を分担することで、高速性・定時性を確保するとともに、予想される南海トラフ巨大地震等の災害発生時には、代替路及び緊急輸送路としての役割を果たす極めて重要な道路である。平成24年4月の御殿場JCT～浜松いなさJCT間の部分開通により、県内では宿泊者数が2年連続して増加し、工場立地数は開通前の約2倍で推移するなど、観光振興や地域経済活性化の面で開通効果は着実な広がりを見せている。</p> <p>今後、愛知県との交流がより一層促進され、事業効果を更に拡大するためにも、安全性の確保に向けた対策工事を着実に進め、一日も早い開通をお願いしたい。</p> <p>&lt;浜松市&gt;第二東海自動車道(浜松いなさJCT～豊田東JCT)の整備により、本市から中京圏への所要時間の短縮や定時性の確保が可能となり、輸送の大幅な効率化が図られ、本市における企業立地の推進や地域産業の活性化、観光振興など大きな経済効果をもたらすものと期待しております。加えて、南海トラフ巨大地震等の大規模災害の発生に備え、救急救命活動や復旧支援活動を支える広域幹線ネットワークの整備が強く求められており、新東名高速道路は三遠南信自動車道と連動して「命の道」となる極めて重要な路線です。</p> <p>今後も引き続き、本路線の一日も早い全線供用に向け、事業の確実な推進をお願いします。</p> <p>&lt;愛知県&gt;新東名高速道路は、日本の新たな大動脈として我が国の成長力・国際競争力強化に資する大変重要な社会基盤である。さらに、沿線には魅力的な観光地が数多くあり、当該区間の開通により観光客増加による地域の活性化が期待されるとともに、南海トラフ巨大地震などの甚大な自然災害発生時において、迅速な救援や物資輸送を担う重要な道路である。</p> <p>当該区間に並行する現東名高速道路では、音羽蒲郡IC～豊田JCTにおいて暫定3車線運用(H23.10.21)を実施しているが、交通渋滞が多発しており「国民生活」並びに「経済活動」に支障を来している。</p> <p>現東名高速道路の抜本的な対策として、新東名高速道路とのダブルネットワーク化は不可欠であり、新東名高速道路(浜松いなさJCT～豊田東JCT)の一日も早い開通をお願いしたい。</p>						
事業評価監視委員会の意見						
対応方針(原案)のとおり了承。						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等						
<ul style="list-style-type: none"> <li>前回の再評価時以降、2012年4月に新東名御殿場JCT～三ヶ日JCTが開通し、東名の交通量が増加している。</li> <li>また、東名の渋滞対策として、前回の再評価時と同じ年の2011年10月から、音羽蒲郡～豊田JCT間で暫定三車線運用を開始し、渋滞回数は減少したが、依然として渋滞が発生している。</li> </ul>						
事業の進捗状況、残事業の内容等						
工事実施中						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等						
今後も引き続き工事の推進を図る予定。						

施設の構造や工法の変更等

新技術・新工法や現地の状況変化も確認しながら積極的にコスト縮減を図っていく。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。